

各 位

山形市野草園 : 山形市大字神尾 832-3  
電話 023-634-4120

## 山形市野草園からのお知らせ(5月号)



1

2



3

4



### 新緑から深緑へ 薫風を楽しむ

- 1 木かげが心地よい野草の丘 薫風が吹き抜けていくのを感じる
- 2 新緑の林の中 シラネアオイ (キンボウゲ科) に見とれる
- 3 杉林の中を歩き クマガイソウ (ラン科) の不思議な姿に会う
- 4 深緑のハンノキ林の中 木道を歩く

大雪のために雪解けが遅れた今年の野草園。その遅れを取り戻すかのように、次々と花が咲いていきます。また、芽吹いた木々の緑は《新緑》から《深緑》へと変化していきます。5月、ふと気がつくと、木々の間を薫風が吹き抜け、エゾハルゼミの鳴き声が聞こえるようになっていきます。一日一日、野草園は初夏の姿へと変わっていきます。

初夏の緑が目まぶしい季節、木かげにシートを敷いてお茶をいただきませんか。日に日に緑色濃くなっていく林の中を散歩し、出会ったことのない植物を探してみませんか。ザゼンソウやミズバショウでいっぱいだった「ミズバショウの谷」を歩き、その変化に驚いてみませんか。自然の中に身を置いて、穏やかな心になっていくことに気づいてみませんか。さあ、野草園に出かけましょう。

## 5月の予定

### ◆開園時間・無休期間

- 開園期間 午前9時～午後4時30分（入園は午後4時まで）
- 無休期間 4/18（月）～6/13（月）は無休

### ◆野草園は SUKSK ポイント対象施設

- 期 間 野草園開園期間 4/1（金）～11/30（水）
- 内 容 専用のスマホアプリで二次元コードを読み取るかポイントシールを受け取ることで、1回の来園で500ポイント付与（1日1回まで） 《詳細は「山形市 健康ポイント スクスク」で検索》

### ◆ガイドウォーキング

- 実施日 毎週日曜日・祝日 1日2回実施  
（ただし、無休期間の土曜日《4/23（土）～6/11（土）》も実施）
- 時 間 ① 午前10時30分～午前11時30分 ② 午後1時30分～午後2時30分
- 内 容 その日の見頃の場所・見頃の植物を案内
- 人 数 各回先着10人 園内学習センター前集合
- 費 用 参加費無料 《ただし入園料300円（高校生以下無料）》

### ◆サクラ祭り

- 期 間 4/23（土）～5/8（日） 午前9時～午後4時30分
- 内 容 5月上旬に見頃となるのは、ヤマザクラ、カスミザクラ、ミヤマカスミザクラ

### ◆第28回野草園の魅力を探る写真コンテスト入賞作品展

- 実施日 5月14日（土）～7月3日（日） 午前9時～午後4時30分
- 時 間 午前9時～午後4時30分
- 場 所 野草園内自然学習センター
- 内 容 令和3年度の写真コンテスト入賞作品を展示
- 費 用 入園料300円（高校生以下無料）

### ◆四季観察会(西藏王のサクラ)

- 日 時 5/2（月） 午前9：30～正午
- 場 所 野草園内
- 内 容 ミヤマカスミザクラなど見頃の花を中心に案内
- 対 象 県内在住者 先着20人
- 参加費 資料代・入園料込400円（高校生以下100円）
- 申込み 電話で野草園まで TEL023-634-4120



世界で野草園にしかないミヤマカスミザクラ  
（5月上旬）

### ◆山野草の育て方教室

- 日 時 5/17（火） 午前10：00～正午
- 場 所 野草園自然学習センターピロティ
- 内 容 トビシマカンゾウ、ギボウシ（レモンライム）、ノアザミ（白花）の寄せ植え  
育て方についての説明

- 対象 県内在住者 先着13人
- 参加費 材料代・入園料込3,000円(高校生以下2,700円)
- 申込み 4/15日(金)より 電話で野草園まで TEL023-634-4120

### ◆昆虫写真教室

- 日時 6/4(土) 午前10:00~正午
- 場所 野草園自然学習センターピロティ
- 内容 食べる・休む・隠れるなど、虫たちの生きざまを写す視点を学ぶ(小雨決行)
- 対象 大人 先着10人
- 持ち物 カメラやスマホなど撮影できるもの
- 参加費 入園料300円のみ
- 申込み 5/17日(火)より 電話で野草園まで TEL023-634-4120

### ◆博物館実習生募集について

- 募集期間 5月23日(月)~7月1日(金) ○実習期間 8月30日(火)~9月4日(日)
- ※詳細は野草園ホームページに掲載される申込要項をご確認ください。

### ◆カフェの営業・山野草販売 (自然学習センターで販売)

- カフェやまぼうし 《5/4(水)は臨時休業》  
《営業》木曜・土曜・日曜・祝日 午前10:30~午後2:30  
《メニュー》カレー、ピザトースト、サンドイッチ、バナナシェイク、コーヒー
- 山野草販売  
《営業》土曜・日曜・祝日に販売予定(平日販売の場合もあり・夏の期間休業あり)

### ◆開花した花等の紹介

- 野草園のホームページから観察日記・インスタグラムをご覧ください。  
園内の様子や開花状況等をお知らせいたします。
- ホームページ内の「植物検索システム」で園内の植物を検索できます。  
検索できる植物を少しずつ増やしていく予定です。

▲野草園観察日記▲



5月の風景

## ●●● 5月に見られる主な花 ●●●



### ミヤマカスミザクラ(バラ科)

世界でここだけで見られるサクラです。野草園内に自生するサクラで、花柄が枝分かれする等のミヤマザクラの特徴と、花弁の先に切れ目がある等のカスミザクラの特徴を併せ持つ自然交配のサクラです。花の色は白っぽく、清楚な感じがします。



### カスミザクラ(バラ科)

シュウガツザクラ、オクチョウジザクラ、ミネザクラ、オオヤマザクラに続き、ヤマザクラが開花した後に、葉の展開と同時に開花します。花は白っぽくヤマザクラに似ていますが、花柄に毛があるので区別できます。ヤマザクラよりも標高の高い所に多く生え、寒冷地を好みます。名前の由来は、開花時の花の様子を霞に例えたものだそうです。



### ミヤマザクラ(バラ科)

山地に生育し、南に下るにつれて亜高山帯に多くなります。“深い山の桜”ということから、ミヤマザクラという名前がついています。ヤマザクラやカスミザクラより開花が遅く、葉が開いてから花が咲きます。枝に総状花序を出し、白い花をつけ、花弁は先が円く、裂けていないことが特徴です。



### シラネアオイ(キンポウゲ科)

日本特産の1属1種の植物で、多雪地の山地に生える多年草です。淡紫色の花は花弁状の4枚の萼片です。中央に黄色い多数の雄しべと2つの雌しべがあります。葉は手のひら状に分かれています。名の由来は日光の白根山に多く、花がタチアオイに似ているからのようです。



### クリンソウ(サクラソウ科)

山地の湿地などに生える多年草で、長楕円形の大きな葉の表面はしわがたくさんあります。花が開く頃に花茎はぐんぐん伸び、紅紫色の花を5～7段輪生状に多数つけます。日本のサクラソウの間では最も背丈が高いようです。クリンソウ(九輪草)は、寺院の塔の頂上部にある九つの輪の装飾(九輪)に例えて名づけられたようです。



### クマガイソウ(ラン科)

杉林や竹林に多く、長い地下茎で繁殖する多年草です。ランではめずらしく幅広い2枚の葉がほぼ対生状につき、袋状に大きくふくらんでいる花を茎の先に1個つけます。その昔戦場で矢よけのためにふくらませた布製の袋(母衣)を背負いましたが、袋状の唇弁を源氏の武将熊谷次郎直実の母衣(ほろ)に見たてたことが名前の由来です。



### ヤマシャクヤク(ボタン科)

林の斜面などに生育する多年草です。葉は2回3出複葉で、両面とも無毛で柔らかいです。白い花は花弁は5~7個、雄しべは多数でやくが黄色く、雌しべが3個で柱頭が赤黒いです。3~4日で花は散ってしまいます。



### オキナグサ(キンポウゲ科)

花茎の先に付く花はつり鐘形です。葉も花弁状の萼片の外側にも白い毛が密生して白っぽく見えます。萼片は6個あり、内側は暗紫赤色です。花が終わった後雌しべが羽毛状にのび、老人の白髪のようになります。それで、オキナグサ(翁草)です。



### キバナイカリソウ(メギ科)

和名は花の形を船の碇に見たてたものです。主に日本海側の山地に生える多年草です。花色は淡黄色で、4枚の花弁からのびた長い距が四方につきだし、前のほうに曲がっているのがよくわかります。漢方では、強壯剤として有名です。



### カタクリ(ユリ科)

1枚の細長い葉から平たい葉になって、2枚の葉を出すようになると花を開きます。種子から開花まで7年もかかるそうです。カタクリの花は淡紅紫色で、花びらのつけ根に濃紫色のW字形の模様があり、上の方へ大きくそり返ります。カタクリのでんぷんから採ったものが本物の片栗粉です。



### サクラソウ(サクラソウ科)

山地の湿り気の多い所に生える多年草で、花が美しいことからよく家庭で栽培され、園芸品種も多いようです。葉は楕円形でしわが多く縁は浅く切れ込んでいます。名前はサクラに似ているからついたようですが、サクラソウは合弁花で5枚に見えるハート形の紅紫色の花弁は下がくっついて筒状になっています。



### ヒメシャガ (アヤメ科)

花山地の林の下などに生える多年草です。草丈が20～30cm、葉先が尖る細長い葉を株立ちさせ、根茎が横に這って増えていきます。花がシャガに比べてやや小型なので、《ヒメ》がつけました。径4cm程の淡紫色の花を2～3個咲かせます。外花被片の中央は白色で、紫色の脈と黄色の斑紋があり《とさか状》の突起があります。



### ニリンソウ(キンポウゲ科)

藤棚の西側の道をはさんでウゼントリカブトの向かい側に咲いています。2個の花をつけることによる名ですが、1個のことも、3個のこともあるようです。白色の花は花弁状の萼片で、5～7枚あります。葉は3つに深く裂けていて、淡白色の斑点があります。



### ヒトリシズカ(センリョウ科)

高さは10～30cm。葉は4枚が輪生状に付き光沢があります。茎先に1本の穂状花序を出し、ブラシ状の小さな白い花をつけます。一本で生えるのは稀で、普通群生するようです。名前の由来はこの花の可憐さを愛でて静御前になぞらえたものと言われています。近縁種のフタリシズカが花穂を2本以上出すのと対比させています。



### ウラシマソウ(サトイモ科)

一見、マムシグサに似ていますが、肉穂花序の先端の付属体が長く伸長し、釣り糸に見えるのが特徴で、浦島太郎の釣り道具に例えたことが名の由来です。紫の花弁に見えるのは肉穂花序を包む仏炎苞です。サトイモ科なので肥大する地下茎を作り、ある程度大きくなると雄株から雌株に性を変えます。



### フデリンドウ (リンドウ科)

山野の日当たりのよいところに生える小さな2年草です。秋に咲くリンドウとくらべると小形です。茎の半ばから上に対生の葉をつけ、その先に青紫色の花を数個つけます。花は上向きに咲き、日光が当たると開き雨天や夕刻では閉じます。茎の先につく花のつぼみ（正確には花が閉じたとき）の形が筆の穂先を思わせることが名前の由来です。



### ミツガシワ (ミツガシワ科)

氷河期には広く分布していたと推定される寒冷期の遺存種です。山地の沼や沢などに生える多年生の水草で、泥中に太い根茎があります。ミツ柏の紋章に似ているという、名前のもとになった3枚の葉と並んで花茎を立て、白い小さな花を咲かせます。しょうご形の花をよく見ると、花弁に白い縮れた毛が密に生えていて目を引きます。



### イワカガミ (イワウメ科)

花深山に生える常緑の多年草。茎は短く、しばしば地に接し、根ぎわに長い柄の径3~6cmの葉が群生します。葉は革質で表面に光沢があります。初夏、葉の間から高さ10cmほどの花茎を直立し、繖状花序をなして、淡紅色の花を3~6個開きます。萼5、花冠5裂、雄しべ5。蒴果を結びます。葉が径12cm位になるものをオオイワカガミといいます。



### アズマシャクナゲ (ツツジ科)

東北地方など東国に分布するので、この名が付けられました。枝の先に花芽が1個つき、そこから数個の花が咲きます。花は漏斗形で広く開き、先は5裂します。常緑の葉は革質で、裏面に灰褐色の真綿状の軟毛があるのが特徴です。



### タニウツギ (スイカズラ科)

主に日本海側の山地に生える高さ2~3mの落葉低木です。小枝の先端に、淡紅色の先が5裂した漏斗形の花が2~3個ずつまとまってつきます。田植えの時期に花が咲くので「田植花」とも呼ばれます。多くの地方名があることから、人々と深いかわりがあったことがわかります。



### ムラサキヤシオツツジ(ツツジ科)

日本海側の夏緑林帯に多く針葉林帯にもあります。葉は枝先に輪生状に付きます。山形県では、鳥海山、月山、蔵王山、朝日岳、吾妻山などに普通に自生しています。本園ではロックガーデンに植栽しています。



### シロヤシオ (ツツジ科)

太平洋側の山地に多く、葉と同時に開く花は白いので清潔な感じのするツツジです。名も花が白いことからきています。花は広い漏斗形で先が5裂して上面の花弁の内側に緑色の斑点があります。葉は枝先に5枚輪生状に付くことからゴヨウ（五葉）ツツジとも言われます。



### ヤマツツジ(ツツジ科)

北海道から九州まで広く分布し、日本人の多くに親しまれているツツジです。半常緑低木で、春にでて秋に落葉する春葉と夏から秋にでる夏葉があり、夏葉の多くは越冬します。花の上面に濃紅色の斑点があります。花の色には変化があり、紅紫色や白色のヤマツツジもあります。



### レンゲツツジ(ツツジ科)

つぼみの様子をレンゲの花に見たてた名です。草原や林縁に生える落葉低木で、葉の展開と同時に朱橙色の花が開花します。1個の花芽から2～8個の花が咲き、日本のツツジの中ではもっとも大きい花を付けます。花弁の上側に斑点があるのと、葉の表にしわがあるのが特徴の1つです。有毒植物で家畜が食べないので牧場などに多くあります。



### サラサドウダン(ツツジ科)

深山の林内や林縁、岩場に自生し、ドウダンツツジの仲間では最も北方まで分布しています。花は淡紅白色で紅色の縦の筋があります。更紗のような模様が名前の由来になっています。白いドウダンツツジと花の形は似ていますが、壺形にならず先が広がり鐘形になるところが違います。